

令和7年度広島県食育推進会議 議事要旨

日 時 令和8年3月24日(火) 13:00~14:30

場 所 オンライン開催

出席者 森脇委員(会長)、魚谷委員(副会長)、瀬川委員、元廣委員、岡田委員、柏崎委員、大下委員、柳川委員、石川委員、宇佐川委員、畑山委員(代理:棒田 営農組織支援部次長)、西中委員(代理:吉岡氏)、渡邊委員、増木委員、山本委員、橋本委員(以上16名)

開会

委員紹介

議事 第4次広島県食育推進計画に係る取組状況について

事務局:次の資料に基づき説明

- 資料1 第4次広島県食育推進計画 目標一覧
- 資料2 食育推進事業主な取り組みと実施主体(R6~8)
- 資料3 第4次広島県食育推進計画 重点目標に係る取組状況について
- 資料4 第4次広島県食育推進計画 基本的施策 取組状況(関係課)

第4次広島県食育推進計画の目標に対し現状値を把握するとともに進捗を確認している。一部の項目については厚生労働省が行う国民健康・栄養調査の広島県分データを活用しており、入手できている県分のデータから、令和4年の結果を直近値としている。

改善したものは、「食塩摂取量」、「適正体重を維持している人の割合」、「食品の栄養成分表示を知っており、購入時に参考にしている人の割合」、「肥満傾向にある子供の割合」、「地域の食文化を受け継いでいると思う人の割合」である。

「野菜摂取量」、「毎朝朝食を食べる県民の割合」、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合」、「共食」、「農林漁業体験」は悪化している。

来年度は県民健康意識調査等から進捗を確認していく。

資料2では計画前半の主な取組と実施主体を示している。

令和8年度は、広島市、県内スーパーマーケットと連携し、減塩、野菜摂取、朝食摂取などの重点目標を主としたテーマについて、ポスター、ポップ、店内放送により、県内一体となった啓発を実施する予定である。

ベジチェック測定会は、今年度は県内で5件実施した。来年度は県内での実施希望を広く調査し、実施件数の拡大を予定している。

今年度は昨年度に引き続き、朝食摂取を推進するイベントを大学や企業と連携して実施した。若い世代で朝食の欠食率が高いことから、大学生の意見を取り入れながら来年度も企業と連携したイベントの開催を計画していく。

重点目標に関しては、資料3のとおり関係団体含め様々な取り組みを行っていただいた。関係課の取組状況報告については、資料4にて代えさせていただく。

関係団体:次の資料に基づき取組紹介

資料5 第4次広島県食育推進計画 基本的施策 取組状況（関係団体）

魚谷委員： 広島県医師会は学校を中心にアレルギーに対応する相談窓口を設置して、園医・嘱託医・学校医にも相談対象を拡大している。医療の現場では、肥満に関し、エネルギー過剰、運動不足、睡眠、精神的な異常にも食が非常に関係しており、かつ、朝食を食べようということも含め、夜遅く食べることが、ホルモンの関係から肥満症にも悪く、食べるものの内容だけでなく、生活全体として取り組まなければ結果が出ないことが明らかになってきており、医師会ではそういうことの啓発を県民に広げる活動をしていく。

8月24日は園・学校関係者を対象として食物アレルギー講習会を予定している。

また、女性はスタイルを重視し太ってしまうのは嫌だったりするので、バランスの良い栄養の摂取が実現できず、特に若い女性は20歳位で一生分の骨の貯金の状態が決まってしまうことも皆さんに流布した上で取り組みを進めていきたい。

食育健康サミットを日本医師会が主催するが、地区医師会が広報に協力している。その他、医師会主催で、骨粗しょう症をテーマとした講話も行った。

瀬川委員： 食育を考えると食べるのが大事で、フレイルの話も出たが、要介護になる方の前駆症状としてフレイルの前に、オーラルフレイル、口腔機能の低下が起きるので、様々な調査や口腔機能の啓発活動を行っている。

また、食を通じて口の健康の大切さについて学び、考え、食と口腔に関する正しい知識を基礎として、生涯にわたって健全な食生活を実践できるということを目指し、アンケート調査や啓発グッズの配布等を行っている。

高齢者へは摂食嚥下の取組として、栄養士との他職種連携事業も行っている。

元廣委員： 今年度は保護者セミナーを実施した。栄養の費事業は8月4日前後に各支部または栄養ケアステーションで開催し、今年度は減塩で薄味でも美味しいということを中心に、体組成計、塩分チェック、レシピ配布、栄養相談ブースを展開した。数年前からこの事業を展開しており、来年度は実施個所の拡充を検討している。

岡田委員： 23市町中14市町が食生活改善推進員協議会に加入している。地域の人に食を通して健康になっていただきたく、公民館を中心に、会員は親子の食育教室、生涯骨太クッキング、男性のための料理教室、やさしい在宅介護職教室、災害時の食事支援教室などの活動をしている。

ヘルスサポーター養成を通じた地域をつなぐプロプロジェクトは若者世代、働き世代、高齢世代とそれぞれの世代別に実施している。食生活改善推進員会員が減少傾向にあることから、食生活改善推進員を知っていただき、メンバーに参加していただきたく行っている。

健康イベントで、ベジチェックによる野菜摂取量のチェックも実施している。

つなごう郷土の食ということで、今、郷土料理を知らない人が増えているが、郷土の食を繋いでいくことが今年度の県協議会の目標でもあり、小学校、中学校、高等学校で若い人たちに郷土料理を伝える活動をしている。

柏崎委員： 広島県PTA連合会県大会で、講師を呼び食育講座を開催した。お弁当の日ということで、子供たちに給食ではなく、お弁当を自分で作ってもらい取り組みをされている方の講演を聞いた。栄養面ばかりでなく、家族の絆をテーマに食の重要性に迫る活動をした。

広報誌「陽だまり」を出しており、食育コラムを掲載している。

広島県百万食プロジェクトに参加し、地域の特性を活かした食生活の推進を行っている。広島百万色メニューの投票の呼びかけも行っている。

来年度もテーマは変わるが講演会を行う予定である。

大下委員： 各市町から食育委員と任命された職員が集会し、研修会の企画、広報誌に毎回食

育だよりを載せている。各園の取り組みとしてはお米作りや遊びや学びの観点から、子供たちにどういう風に食に関心を深めていくか、どういう取り組みをされているかをそれぞれが出し合い学び合っている。近年、保育現場では子供の偏食が深刻で、偏食といっても軽い好き嫌いの程度ではなく、触覚過敏であったり、白いものしか食べられないなどのお子さんも増えている。そういったお子さんに対し、どう私たちが関わっていくか、どのような形で食事を提供していくか、保護者とともに一緒に考えあって、学びあえるよう、先生を招き年に2回、研修を行なっている。令和8年度も、子供たちの食が豊かになるような取り組みをしていきたい。

森協会長： 広島県私立幼稚園連携は、欠席のため当方から紹介する。
在園児等の保護者に対して、食育相談等の子育て支援を行った。来年度も同様の活動をする予定である。

宇佐川委員： いただきます！ぶちうま継承プロジェクトについて説明する。どう家庭に浸透していくかを前提に、対象者は小学生及びその保護者と限定している。この事業は広島県内を4ブロックに分け、毎年度各ブロックから郷土の伝統食や食材を取り上げ、地元の皆さんと協力をしながら子供たちに体験をさせることを通じて、食への興味・関心を高めてもらう事業である。食育の目標にある伝統文化の継承も目的にしている。令和3年度から実施しており、昨年度は12月に竹原市で行った。ジャガイモを題材に、単に食べるだけではなく、どういう歴史の中でジャガイモが作られてきたのか、そして、実際に掘ってみて、プロが調理し、色々なジャガイモを食べ比べた。

その他、地域の協力により、蜂蜜の学びということで、蜂の巣を持ってきて、蜂蜜ができるまでの過程を子供たちに見せた。今年度も地元の方の協力をいただき、充実した事業を実施することができた。

今年度は備北ブロックで、庄原市で地域の方と連携を図りながら食材や伝統食を見つけて準備を進めている。また時期になれば会議で情報提供したい。

棒田次長： 畑山が出席の予定であったが棒田が報告する。JAグループ広島地産地消デリシャス大使ということで、声優でアーティストのMachicoさんを起用し、今年度も広報活動を展開した。地産地消について、農業の課題が出てきており喫緊の話になっているが、食卓から農業の問題を考えてもらうことをテーマに今年度は実施してきた。チラシや幟等を利用し、若年層・子育て層を対象に、県内の産直市やフードフェスティバル、イオンモール広島府中「すくすく夢フェスタ」で地産地消のアピールを行った。

保育園・小学校等へSNSを通じてバケツ稲づくりの実践を行っている。こちらは稲の開始から収穫まで、参加された保育園・小学校から写真をもらい、定期的にインスタに投稿し、育成方法、育成状況等を紹介した。

各JAでは、子供から大人までを対象とした地域の食の教育を実施している。伝統野菜の料理教室や味噌づくり等の実践を行っている。また広報誌の発行や、SNS、テレビでの発信を行ってきた。

今年の大きな施策としては、歌手のメビウスが地産地消ソングに、子供さんや親御さんに刺さるよう、ダンスもつけて、広島県民が地元で取れたものを積極的に食べよう、それが農家さんに助けになるという内容で、野菜の日（8月31日）からリリースした。

今年はこのメビウスのおいしい広島を使った食育活動を推進していきたい。

吉岡氏： 西中の代理で出席している。ミルクイベントとして、レクトやマツダスタジアム、フードフェスタといったイベントで牛乳の価値発信を続けており今後も続けていく予定である。昨年度は、地元三次市内の高齢者施設を訪問し、メビウスを招き、耳で音楽を聴いていただき、牛乳の価値、骨粗鬆症予防など健康に良いことが

あるという発信をしている。また、ウェルネスフェス HIROSHIMA や地域のそばまつりにも出向き、酪農家と一緒に商品拡大活動、牛乳の価値発信をしている。ラジオ放送でも MILK AROUND HIROSHIMA という広島 FM の番組の中でコーナーを作った。俊山真美さんを招いて普及活動に取り組んでいる。去年は北海道で乳用牛の品評会があり、県内農業高校学生と先生を北海道へお連れし、食農教育、また、将来農業に関わる仕事に携わってほしいという願いも込め、一緒に行って勉強をさせていただいた。その他、SNS、J A 広島中央会との連携による YouTube 動画の発信など今後展開し、牛乳が搾られてから製品になるまでの行程を紹介するなど企画としてあげている。

渡邊委員： 食塩不使用のいわしの唐揚げ、小麦粉不使用のイワシの唐揚げ製品等を製造しアレルギー対策等の新規提案を行っている。

広島給食推進プロジェクトに参加し、広島県内の企業、栄養士と食育の会議に参加している。

環境に配慮したマリンエコラベルジャパン認証の製品を取り扱うために流通確保段階の主要新認証を取得し、エコラベルジャパン製品の普及推進もはかっている。

また、市町主催の水産祭りへの参加や、各漁業協同組合単位で行なっている牡蠣祭りを通じて、地元の人との交流を図るとともに、フードフェスティバル等のイベントに参加し、地元水産物の普及推進をはかっている。

増木委員： 減塩及び野菜など栄養バランスの良い食事をとることを積極的に推進した。食について、みんなで学び広めた。組合員の疑問や知りたいこと、思っていることについて情報提供した。SDGs に関わる食のエシカルについて学んだ。学習会を開催し、食についての交流を行った。地産地消に取り組み、生産者との交流を通して理解を深めた。オンラインを活用した学習会を行った。令和 8 年度も今年度と同様のことを行っていく。

森協会長： 食品衛生協会、スーパーマーケット協会は、欠席のため当方から紹介する。

食品衛生協会については、食中毒予防期間にパレード、チラシ配りを行った。ノロウイルスの食中毒予防の講習会、保育園児に手洗い指導を行った。食品の適正表示推奨者育成講習会や啓発チラシを配布、食品衛生指導員による巡回指導を行った。来年度も同様の事を行う。

広島県スーパーマーケット協会については、朝食向き商品の拡充、メニュー提案、店頭で健康イベントを実施された。

食卓を囲みたくなる団らんの提案、地域住民同士の交流の場への支援、親子向けの食育イベント、地場産物や地域の食材をアレンジした商品開発などを行われた。

食品ロス削減に係る啓発物を掲示、小学校で出前事業、親子のエコ料理教室を開催された。

食べきりレシピを開発、水産業体験イベントをされた。

季節を楽しむ行事食の提案、食の魅力の発信をされた。

健康づくりに関する啓発物を掲示、ハンドブックを配布、ホームページ、アプリを使い情報発信された。

来年度は、これに加え店内放送、イベントの開催を考えられている。

ここからは今後の計画推進についての意見交換とする。何か意見等あるか。

山本委員： 食品工業協会の取り組み状況を紹介する。

各種団体、加盟の組合企業が食育活動を行っている。食品工業協会はフードフェスタの実行委員会に入っており、毎年数社・団体が参加し食育活動をしている。

漬物組合業界は非常に取り巻く環境が厳しい。特に食育では塩分に関わっていて、常食量としては 30 g 程度であると大体 1 ~ 2 g 弱位になる。漬物はナトリウム

だけではなく、カリウムも摂取できる。

全国の組合連では毎年漬物グランプリを開催しており、今年で11回目になる。一般の漬物業者がエントリーするが、学生にも3年前から参加いただいている。若い人に漬物文化の浸透を図っていきたい。様々な形で慣れ親しんでいただきたく、漬物グランプリの中で漬物のキャラクターを普及していこうとしている。

森協会長： 漬物は本当に日本の伝統的な料理であり、若い人に受け継いでいく必要がある。その他意見等はあるか。

増木委員： ベジチェックについて、生協の広島県内7店舗でも先週から機械を置くようになった。野菜摂取量の推定を測定できる仕組みについてどう説明したらよいか教えていただきたい。

森協会長： 緑黄色野菜に反応するようで、色素を測定しているのではないか。

事務局： 皮膚の中にあるカロテノイド色素を特殊な技術で測定をし、緑黄色野菜の摂取量を推定する仕組みとなっている。

森協会長： 重点目標のひとつに朝食摂取の推進があるが、子供たちの摂取状況はどうか。私立幼稚園連盟の柳川委員に状況をお聞きしたい。

柳川委員： 朝食は食べてから登園するように全園統一で指導、助言しており、皆さん意識して摂り登園する方が最近は増えていると思う。取組は各園で実施し、食事から体作りということで、各園で朝食は必ず食べてからと保護者会や参観日で話をしている。随分皆さん意識高くされているのではないかと思います。

森協会長： 柏崎委員にもお聞きしたい。

柏崎委員： 学校では給食だよりや保健だよりで朝食を食べましょうとお知らせしている。中学生は特にギリギリまで寝て、朝食を抜いてバタバタと出ていくこともあり、私も朝ごはん何か口に入れていきなさいとは言いが、保育園と違い大きくなってくると、なかなか呼びかけに答えてくれず難しいと感じる。母親は朝忙しく、先ほどの朝食に向いている食品の啓発の事例もあったので、活かせたらと思った。

森協会長： 石川委員にもお聞きしたい。

石川委員： 毎年、小学校6年生の児童と中学校3年生の生徒を対象に、毎日朝食を食べていますかという調査をしている。令和7年度4月の結果では、小学校6年生の児童は93.3%、中学生は9割を超えている。中学生までは用意してあるものを食べて出ていくが、高校、大学になっていくと、自分で作っていいかなければならず、そこで少しハードルがあると調査結果からは考える。

森協会長： 大学生と毎日顔を合わせるが、大学生は自立し独り立ちする時期であり、そして若く健康であるので、あまり食生活に関心がない。やはり自立するぐらいから、朝食や食生活をなんとかしていかないといけないと思う。

オブザーバーとして広島市から出席があるが、来年度の取組について参考にお聞きしたい。

広島市： 本日会議で県から本市との連携について説明があったことに関連し、取り組みを紹介する。今年度、本市の広報紙である広報ひろしま「市民と市政」を活用した啓

発を行った。6月の食育月間に合わせて広報紙の1面に「1日に食べたい野菜の量は両手3杯分くらい」という記事を掲載した。こちらの広報誌を活用してポスターを作成し、広島県スーパーマーケット協会の協力の下、市内のフレスタ店舗でポスターの掲出をした。その他、広島県スーパーマーケット協会と連携し、店内に掲出するポップや店内放送の検討を行った。今年度は市内のフレスタ店舗で食品ロス削減に関する店内放送を実施した。来年度は店内放送や掲出物をブラッシュアップし、県と連携し啓発を行っていく。

また、今年度、レシピチラシを作成した。本市では、若い世代で朝食を食べていない人が多い、野菜の摂取量が少ない、食塩の摂取量が多い、栄養バランスのとれた日本型食生活の実践割合が低いといった課題がある。これらの課題に対応するため、朝食、野菜、減塩、栄養バランスの4つをテーマにレシピチラシを作成した。レシピチラシはA5サイズの両面で、健康情報とレシピを掲載している。朝食のチラシではまず1品から始め、段階的に朝食摂取を身につけていく方法を紹介し、忙しい朝でも火を使わず簡単に作れるレシピを掲載している。野菜のレシピでは、日々の食事に手軽に野菜をプラスする方法を紹介し、電子レンジで簡単に調理できる野菜レシピを掲載している。減塩のチラシでは美味しく減塩できる工夫を紹介し、酸味や辛味を活用したレシピを掲載している。栄養バランスのチラシでは、料理を組み合わせる際のポイントを紹介し、レシピには主食、主菜、副菜が揃う具体的な組み合わせ例を掲載している。紹介したレシピチラシは今月末に完成予定で、冒頭で紹介したポスターやポップ等と合わせて活用していきたい。

森協会長：厚生労働省がすすめている健康日本21では、自然に健康になれる環境づくりが計画されており、産学官の連携が必要とされている。食育推進会議も食育の関係団体が連携し活動し取り組まれていることがよく分かった。

広島県民が広島県に住んで自然に健康になれたと県民に思ってもらえるよう、この会議がそういった役割ができればと思う。

引き続き関係団体と担当課が連携し、それぞれ得意分野を活かして取り組みをすすめていただきたい。目標の達成度は計画の3年目である次年度、インターネット調査にて把握されるということなので、良い結果が得られればと思う。

地域共生社会推進担当部長挨拶

本日は、年度末のお忙しい中にもかかわらず、第4次広島県食育推進計画の推進状況について熱心に御協議いただき、ありがとうございました。

この計画は、令和6年3月に策定し、第3次計画に引き続き、「健康寿命の延伸」を総括目標に掲げ、関係の皆様御協力により各種の取組を進めているところです。

本県の健康寿命の延伸を図り、誰もが生涯にわたって心身ともに健康であると実感できる社会を実現するためには、県民が食に関する知識を身に付け、適切な食生活を実践できるよう、関係団体の皆様との連携・協力を深めながら、様々な取組を推進していくことが重要と考えております。

本日は、計画の進捗状況等について、多くの御意見・御提案をいただきました。今後、御意見を踏まえ、関係者の皆様と連携しながら、引き続き食育の推進に取り組んでまいります。

委員の皆様には、引き続きの御協力をお願い申し上げます、閉会の御挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

閉会